

## 〈特別寄稿〉

## われら新世界と日本社会に参加す

中牧 弘允（国立民族学博物館・名誉教授／海外移住資料館・学術委員）

JICA 横浜 海外移住資料館における展示の基本テーマは「われら新世界に参加す」である。これは国立民族学博物館の初代館長をつとめた梅棹忠夫（1920-2010）が日本人ブラジル移住 70 周年を記念する国際シンポジウム（サンパウロ、1978）で提示した「われら日本人、新世界に参加す」に由来し、サンパウロのブラジル日本移民史料館の基本テーマにもなっている。海外移住資料館は 2002 年に開館したが、当初、「新世界に参加す」としていたものを監修者である梅棹から主語がないと指摘され、「われら」をくわえた経緯がある（梅棹他 2006：4）。

梅棹は開館 1 周年記念特別講演会（2003）でもこのテーゼにふれ、新世界の文明形成に参加したという文明的な位置づけが移住者にもよろこばれ、自信につながったのではないかと述べている。さらに、日本人全部が新しい文明に参加することは日本国内においても同様であり、参加できる資質は十分にありと発言している。そして、たくさんのひと、とくに若い人に海外移住資料館を見ていただき、「こういう人間の生き方があるんだな」と刺激を受けてもらいたいと結んでいる（梅棹他 2006：7）。

時はながれ、開館 20 周年にむけて海外移住資料館はリニューアルに着手し、2022 年 4 月、リニューアルオープンにこぎつけた。ここでは展示コーナーの新設や充実がはかれるとともに、体験型の展示手法が積極的にとりいれられた。花嫁たちの海外移住、リドレス運動、ララ物資、3D 写真、開墾シアター、触れるジオラマ模型、体験学習スペース等々、じつに意欲的である。また 20 年間の社会変化を反映させることと、誰もがわかりやすく理解できるユニバーサルデザインの導入を心がけたという。前者については、日系人・日系社会の現在、ならびに南米から還流した日系人の歴史がより明確に提示され、後者に関しては、手で触れる「さわる」展示が画期的である。

展示の基本テーマとの関連では、まずニッケイコミュニティの変遷についてブラジルを例に 5 期に分けてモデル化したことが注目に値する。第Ⅰ期は戦前の「在伯同胞社会の時代」、第Ⅱ期は戦後の「コロニアの時代」、第Ⅲ期は 1980 年代の「世代交代の時代」、第Ⅳ期は 2000 年代の「多様化の時代」と分類された。

第 2 に、1990 年代からはじまった南米日系人の「デカセギ移住」から「日本定住」に転じる変化をどう把握するかがひとつの課題となった。開館時には在日の南米人はいくつかの特定の地域に集住し、その数は増加の一途をたどっていたが、年表の末尾、あるいはまつりを中心に据えた「日本の中のニッケイ、世界の中のニッケイ」という展示コーナーでわずかに言及されるにとどまっていたからである。今回のリニューアルでは、前記の「多様化の時代」のなかで「デカセギ現象による新たな展開」「在日ブラジル人コミュニティの形成と日系人の還流」「定住化の進展と変化するアイデンティティ」というトピックのもと、統計資料や写真とともにその変遷が立項されている。

くわえて、在日外国人に関する「法制度の変遷」が 1980 年代から 2010 年代まで 10 年毎に表示さ

れ、群馬県大泉町、静岡県浜松市、ならびに横浜市鶴見区に関して詳説されている。証言映像においても「国内で活躍する日系人」5名が自分史を披露している。さらに、国内の著名な日系人としてマルシア（タレント）、セルジオ越後（サッカー）、佐々木ロベルト泉（ブラインドサッカー）、魁聖（相撲）の諸氏や、日系人と深い関わりをもつ宮沢和史（シンガーソングライター）がとりあげられている。

現在、南米の日系人は日本社会に定着化するだけでなく、母国との往来も盛んになっている。帰属意識も二者択一ではない。その意味で、梅棹にならい「われら日系人、新世界と日本社会をゆきかう」と言うこともできよう（中牧 2024）。実際、このたびのリニューアルでは日系人が日本社会に参加している実態をかなりのスペースをとって展示するようになった。したがって、「われら新世界と日本社会に参加す」と表現しても過言ではないほどである。

梅棹は開館から間もない時期に当館をおとずれ、「この資料館には魂を感じ、とても感動しました」と述べ、「日本移住者の歴史を知ることにより日本人を見直し、自信をもつことができるのではないか」と展示の意義についても指摘している（梅棹他 2006：4）。盲目の梅棹に魂を感じたと言わしめた展示は今回、さらに充実したかたちでリニューアルされ、これからも日本人の自信につながる展示でありつづけることを心からねがってやまない。

---

#### <文献>

講演者：梅棹忠夫、聞き手：中牧弘允、司会：小森毅、挨拶：鈴木信武 2006「日本人と新世界」『JICA 横浜 海外移住資料館 研究紀要・館報』1、1-16。  
中牧弘允 2024「われら日系人、新世界と日本社会をゆきかう」『季刊民族学』187（特集 境界をゆきかう日系人）、4-7。